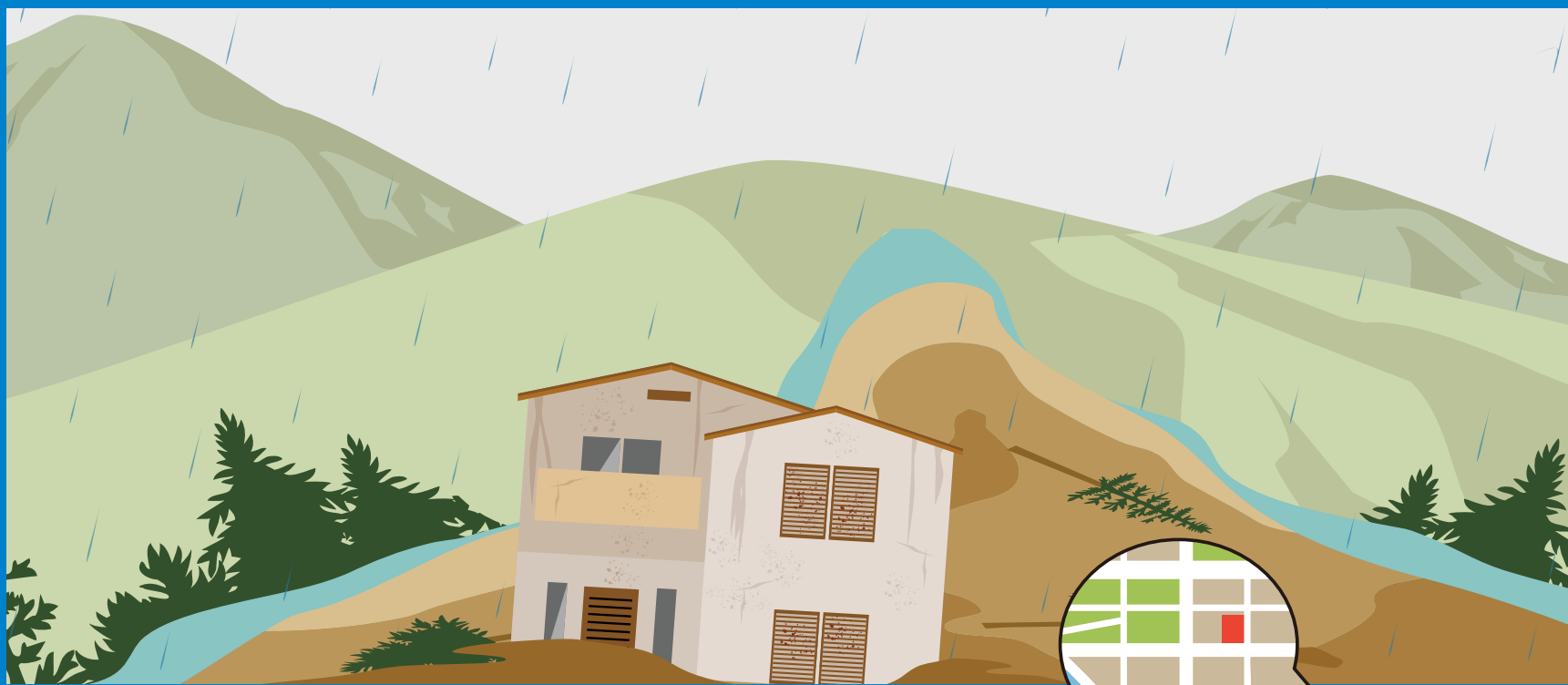




玖珠町 洪水 ハザードマップ



保存版

令和6年9月
発行





マップの使い方・目次

防災対策は万全ですか？

災害から身を守り、被害を最小限に食い止めるには、日頃の備えがとても大切です。
このハザードマップには、防災に関する情報をはじめ、避難所の位置や浸水被害、土砂災害が発生する危険のある箇所を地図上に示しています。
災害に備えて必要となる情報は何か、命を守るためにはどのように行動すべきかを予め考えておき、家庭や地域の防災対策に役立ててください。

ハザードマップの使い方

【1】自宅の位置を確認しましょう

災害が想定される位置を確認しましょう。自宅がある場所は、どのような災害が予想されるのかを地図をみて確認しましょう。

【2】自宅付近の避難所を確認しましょう

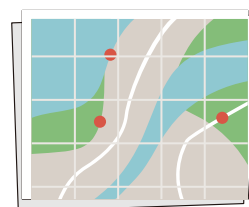
災害に応じた避難所を地図で確認しましょう。

【3】災害想定区域を避けて、避難経路を決めましょう

避難経路は浸水被害や土砂災害などの災害が想定される場所を避けるようにしましょう。

【4】実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう

家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。



目次

● 避難情報	P.1	● 避難時の注意点	P.9
● 川のはん濫	P.2	● 避難行動判定フロー	P.10
● 土砂災害・ため池の決壊	P.3	● マイ・タイムラインの作成	P.11
● 風水害・台風	P.4	● 避難所一覧	P.12
● 特別警報&情報収集	P.5	● ハザードマップの見方	P.13
● 非常時持ち出し品・ 備蓄品の準備&チェック	P.6~7	● 玖珠町 全体図(索引図)	P.14~15
● 地域防災力と 災害時要配慮者への対応	P.8	● ハザードマップ	P.16~81
		● 緊急時の連絡	裏表紙

発行:玖珠町 制作・著作:株式会社ゼンリン大分営業所 作成:令和6年9月

「この地図は、大分県知事の承認を得て、5,000分の1森林基本図を使用し、調製したものである(承認番号24-41号 平成24年8月3日)」
「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R5JHs 167-269号」
「JIS Z 8210 広域避難場所、AED」

(禁無断複製)©2024 ZENRIN CO., LTD.



避難情報

警戒レベルを用いた避難情報

避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒 レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
				浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保! ・警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 ・警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません! ・ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。	緊急安全確保	5 相当 氾濫発生情報	大雨特別警報 (土砂災害)
<警戒レベル4までに必ず避難!>					
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難 ・警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示	4 相当 氾濫危険情報	土砂災害 警戒情報
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ・「高齢者等」は障がいのある人や避難を支援する者も含んでいます。 ・さらに、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難	3 相当 氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・ 高潮注意報	2 相当 氾濫注意情報	——
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1 相当 ——	——

※市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

※内閣府ホームページより一部を抜粋、編集して掲載

自主避難
について

危険を感じたらすぐ避難しましょう

局地的集中豪雨のような突発的な異常気象の場合には、町からの避難情報が間に合わない場合もあります。その際には、身の危険を感じたら安全な場所にいる家族や知人の家、避難所などへ自主的に避難しましょう。

避難に関する2つの情報

災害の危険性が高まった場合、町は避難に関する情報を発令します。
2種類の情報は状況の深刻度に応じて発令しますので、各情報に応じた避難行動をとりましょう。
※警戒レベル5(緊急安全確保)は、すでに災害が発生している状況です。直ちに命を守るための最善の行動をとってください。

警戒レベル3・高齢者等避難

人的被害の発生する危険性が高まった状況。



- 避難するのに時間がかかる高齢者など災害時要配慮者やその支援者は避難を始めます。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常持ち出し品の用意など避難の準備を始めます。

警戒レベル4・避難指示

人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況。



- まだ避難していない住民は直ちに避難します。
- 万一避難する余裕がなければ、命を守る最低限の行動を取ります。



川のはん濫

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川のはん濫

雨量の増加によってもたらされるはん濫には、川から水があふれたり、堤防が決壊して起こる「外水はん濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水はん濫」の2タイプがあります。

外水はん濫

大雨によって、河川を流れる水が大幅に増え、堤防が決壊したり、堤防から水があふれ出す現象です。



内水はん濫

排水能力を超える多量の雨が降り、排水が追い付かず土地や建物が水に浸かる現象です。



大雨によって想定される被害

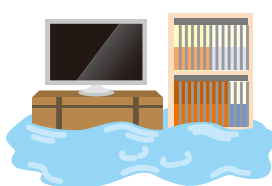
道路の冠水

エンジンが停止したり、ドアが開かないなど、車内から出られないことがあります。



床下・床上浸水

流れ込んでくる水は泥水であり、水がひいた後も土砂や汚泥が堆積するため、片付けが大変です。



家屋の倒壊

河川沿いでは、家屋が倒壊する可能性があり、命の危険もあります。



キキクル(危険度分布)に関する情報

キキクル 危険度分布

検索

気象庁では、大雨による洪水、浸水害、土砂災害の危険度をキキクル(危険度分布)のホームページで色分けして掲載しています。

※大分地方気象台より画像提供

災害をイメージしやすいキキクル

大雨の降っている場所は「雨雲の動き」「今後の雨」で把握可能。
しかし、**災害の発生する場所・時間とは必ずしも一致しない。**



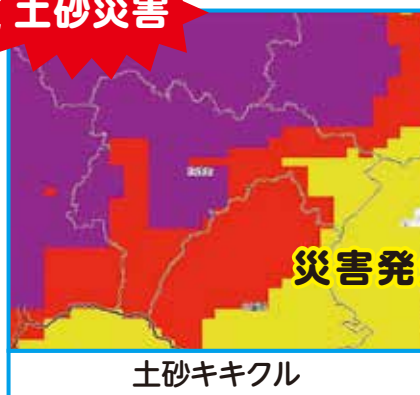
大雨

雨雲の動き

その場では降っていないなくても、
上流の方で降っていたら…!

大雨の後かも知れない!

土砂災害



土砂キキクル

山や崖の近くが危ない!

浸水害



浸水キキクル

周囲より低いところが危ない!

洪水災害



洪水キキクル

川の近くが危ない!

災害発生の危険度が高まっている場所を視覚的に確認



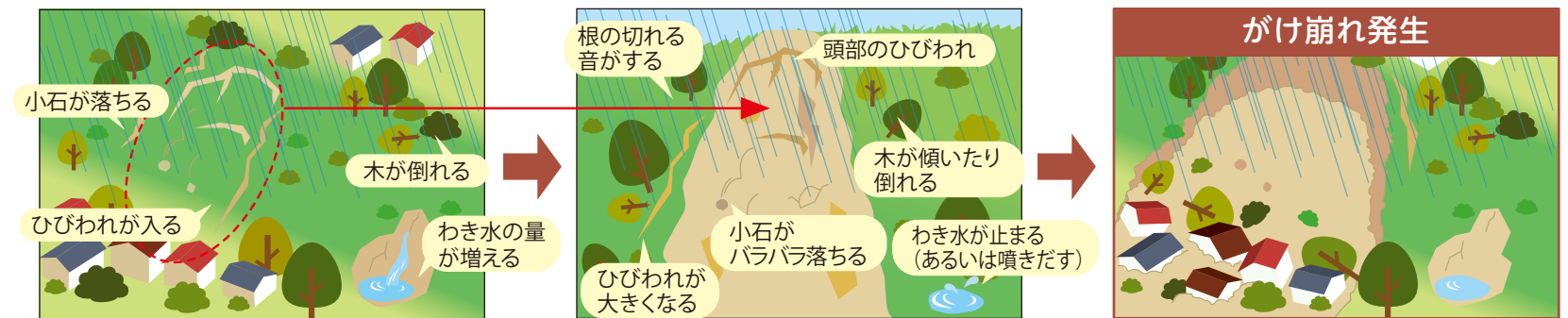
土砂災害・ため池の決壊

土砂災害警戒情報(警戒レベル4相当)が発表されていなくても、普段と異なる状況(土砂災害の前兆)に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難所、避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の種類と前兆現象

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40km という速度で一瞬のうちに人家などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

ため池の決壊

大雨や地震等により決壊が発生すると、ため池の貯水機能が喪失するだけでなく下流人家等への甚大な被害が生じます。

事前放流

豪雨前にため池の水を事前に放流し水位を下げおくことで、ため池の決壊を防ぎ直下流の家屋浸水・農地災害等の被害の軽減が期待できます。



【注意事項】

- ・貯水位の急激な変動は堤体に悪影響(法面崩壊等)を与えるおそれがあるため、斜樋を上から開ける等の配慮を図ってください。
- ・下流の水路や河川が増水している場合は、浸水被害を助長しないように放流量を調整してください。
- ・降雨が想定以下となった場合、その後の水位回復に時間を要し、営農に影響を与えるおそれがあるため、用水量の確保に留意しつつ取り組んでください。



風水害・台風

大雨注意報、警報、特別警報の発表のめやす

大雨注意報

災害が起こるおそれのあるときに
注意を呼びかけて行う予報

- ・表面雨量指数基準 9
- ・土壌雨量指数基準 85

大雨警報

重大な災害が起こるおそれのある
ときに警戒を呼びかけて行う予報

- ・表面雨量指数基準 13
- ・土壌雨量指数基準 111

大雨特別警報

台風や集中豪雨により、数十年に
一度の降雨量となる大雨が予想さ
れる場合に呼びかけて行う予報

- ・表面雨量指数基準および土壌雨量指数基準の数値は、令和5年6月8日に大分地方気象台が発表した基準値となります。
- ・表面雨量指数は、短時間強雨による浸水害リスクの高まりを示す指標で、降った雨が地表面にたまっている量を示す指数。
- ・土壌雨量指数は、降雨による土砂災害リスクの高まりを示す指標で、土壌中にたまっている雨水の量を示す指数。

雨の強さと降り方

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量 10mm以上～20mm未満	1時間雨量 20mm以上～30mm未満	1時間雨量 30mm以上～50mm未満	1時間雨量 50mm以上～80mm未満	1時間雨量 80mm以上
ザーザーと降り、雨の音で話し声が良く聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	どしゃ降り、傘をさしてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。側溝等があふれる。	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。危険地帯では避難の準備が必要。	滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～30m/秒未満	30m/秒以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	何かにつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険。多くの樹木が倒れる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさの階級	風速15m/秒以上の半径	強さの階級	最大風速
大型(大きい)	500km以上～800km未満	強い	33m/秒以上～44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上



集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は比較的困難で、河川のはん濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。



防災対策の事例

- テレビやラジオなどの気象情報に注意する。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 非常時持ち出し品を準備しておく。
- 家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオ等を用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域にお住まいの方は、いつでも避難できるよう準備をする。



特別警報&情報収集

特別警報をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。
普段からの備えと、早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の 発表基準

現象の種類	基 準	
大 雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合	
暴 風	数十年に一度の強度の台風や 同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高 潮		高潮になると予想される場合
波 浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大 雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

※表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

緊急地震速報 などを特別警報 に位置づけます

現象の種類	基 準
地震 (地震動)	震度6弱以上または長周期地震動階級4の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上または長周期地震動階級4)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(居住地域)※を特別警報に位置づける)
津 波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合 (大津波警報を特別警報に位置づける)

※噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」(噴火警戒レベル4または5)を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」(キーワード:居住地域嚴重警戒)を特別警報に位置づけています。

特別警報が 発表されたら

- 尋常でない大雨や津波などが予想されています。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

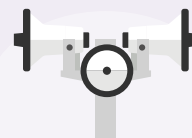
特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・
気象庁ホームページ



防災無線・広報車

「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。

これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁ホームページより一部を抜粋、編集して掲載

「気象情報」については、大分地方気象台HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。



大分地方気象台

〒870-0023 大分市長浜町3丁目1番38号 電話: 097-532-0644
【大分地方気象台ホームページ】 <https://www.jma-net.go.jp/oita/>



玖珠町ホームページ

防災に関する情報・各種情報へのリンクが確認できます。



おおいた防災ポータル

大分県内の防災情報や道路規制情報、防災マップ(避難所、警戒区域等)が確認できます。





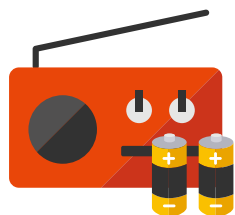
非常時持ち出し品・備蓄品の準備&

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。
日頃から準備できているか、☒チェックしましょう。

非常時持ち出し品(例)

それぞれのご家庭の状況に応じて必要なものを記入するなどして、活用してください。

携帯ラジオ



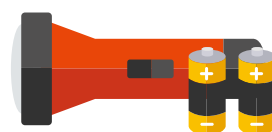
救急医療品



貴重品



懐中電灯



☐	ラジオ
☐	電池(多めに用意)
☐	
☐	
☐	

☐	常備薬	☐	絆創膏
☐	傷薬	☐	包帯
☐	風邪薬	☐	胃腸薬
☐	鎮痛剤	☐	
☐		☐	

☐	現金	☐	預金通帳
☐	印鑑	☐	免許証
☐	健康保険証	☐	権利証書
☐	マイナンバーカード	☐	
		☐	

☐	懐中電灯 (できれば一人にひとつ)
☐	電池(多めに用意)
☐	
☐	

非常用食品等

火を通さずに食べられるもの、食器など



その他



☐	非常用食品	☐	
☐	缶切り	☐	
☐	紙皿	☐	
☐	水筒	☐	
☐	缶詰	☐	
☐	ミネラルウォーター	☐	
☐	栓抜き	☐	
☐	紙コップ	☐	
☐		☐	

☐	衣類・防寒着 (下着・上着など)	☐	マスク	☐	トイレットペーパー
☐	生理用品	☐	消毒液	☐	
☐	離乳食	☐	タオル	☐	
☐	ウェットティッシュ	☐	粉ミルク	☐	
☐	ヘルメット	☐	紙おむつ	☐	
☐	ラップフィルム (止血や食器にかぶせて使う)	☐	カップ	☐	
☐	ハザードマップ(本書)	☐	ライター	☐	
		☐	携帯電話の充電器	☐	
		☐	ホイッスル	☐	

定期
点検!

非常時持ち出し品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や
持ち出し用品の不備を定期的に点検しましょう。



チェック

非常時用備蓄品（例）

災害復旧までの数日間(最低3日)を自活するための備蓄品

飲料水・非常用食品



その他



☐	飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)	☐	ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)
☐	貯水した防災タンクなど	☐	
☐	お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)	☐	
☐	缶詰・レトルト食品	☐	
☐	梅干し・調味料など	☐	

☐	生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)	☐	卓上コンロ
☐	毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど	☐	ガスボンベ
☐	調理器具(なべ・やかんなど)	☐	
☐	バケツ・各種アウトドア用品など	☐	
☐	ランタン(電池)	☐	

過去の震災で役に立ったもの

☐	ポリタンク	☐	ビニールシート	☐	スコップ	☐	車のジャッキ
☐	ホイッスル	☐	新聞紙	☐	ボール・ハンマー・のこぎり	☐	補助用具としてロープ
☐	予備の眼鏡・補聴器	☐		☐		☐	

避難生活が長引くときに便利なもの

☐	携帯トイレ	☐	裁縫セット	☐	地図	☐	筆記用具(マジックなど)
☐	使い捨てカイロ	☐	ガムテープ	☐	さらし	☐	スコップ
☐		☐		☐		☐	

感染症対策のために

非常食や飲料水などだけでなく、感染を予防するため、こうした持ち物も事前に非常用持ち出し袋に入れておくようにしましょう。

- マスク
- ウェットティッシュ
- 記録用ノート
- 石鹸・ハンドソープ
- 手指消毒用アルコール
- 筆記用具
- 体温計
- 家庭での常備薬
- ビニール袋(大小)



※非常用持ち出し袋は、家族全員がわかる場所に保管しましょう。

準備をしておかないとどうなる？

大規模災害が発生した場合、水道施設などが使用できなくなったり、道路の損壊などにより防災機関による救援活動がすぐにできないおそれがあります。災害発生後の数日間は非常備蓄品で生活できるよう準備をしておきましょう。



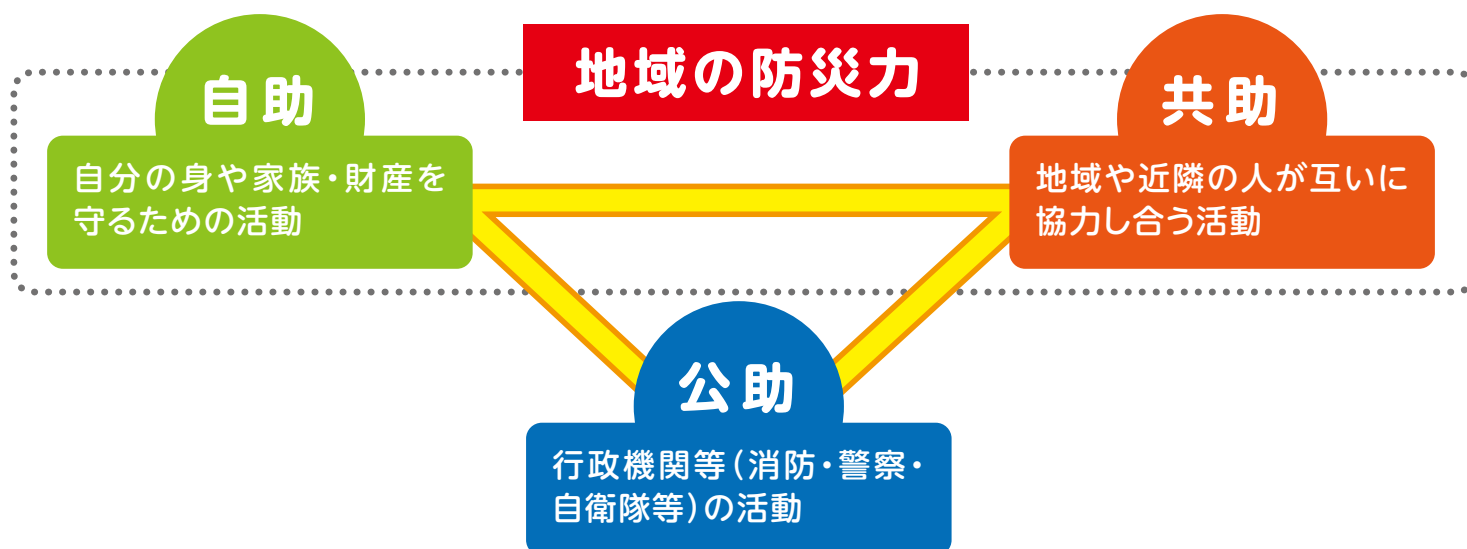
非常備蓄品の準備



地域防災力と 災害時要配慮者への対応

地域防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断やマンパワー不足により十分対応できない可能性があるため、「自分の身は自分で守る（自助）」とともに、「地域での助け合い（共助）」による地域防災力が重要となります。



災害時要配慮者への支援

障がいのある方など、災害時特に配慮を要する方々は、災害発生時の対応に地域の皆さんの支援が必要になります。地域で協力し合いながら、安否確認、避難所への移動、避難生活の支援をしましょう。

高齢者や病気などの方

お年寄りや病気の方、子どもなどは、早めの避難が必要です。みなさんで協力して避難しましょう。



耳の不自由な方

話す時はまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。手話、筆談、身ぶりなどの方法で正確に情報を伝えましょう。



目の不自由な方

はっきり、ゆっくり大きな声で話しかけましょう。誘導する場合は、ひじの辺りを軽く持ってもらい、ゆっくりした速度で半歩前を歩きましょう。



体の不自由な方

車いすの方の場合、階段では必ず3人以上で！昇る時は、前向きに、降りる時は後ろ向きにします。



日本語の不自由な外国人の方

日本語での情報が十分理解できない場合があるため、平易なわかりやすい表現で危険を伝え、避難誘導しましょう。



妊婦や乳幼児がいる家庭

出産に向けた心身の健康状態を良好に保つため、生活環境などに配慮しましょう。乳幼児は感染予防や体温保持などに配慮しましょう。





避難時の注意点

戸締り・ガス・火元・電気のチェック

避難の際は、火の始末と戸締りを行いましょう。
また、通電火災を防止するため、ブレーカーを
落としましょう。



車での避難は控える！

緊急車両の通行の妨げになります。
浸水すると動けなくなりますので危険です。



速やかに避難を！

動きやすい格好で、2人以上で避難しましょう。
災害に巻き込まれる可能性があるので、忘れ物
などを取りに、家に帰らないようにしましょう。

避難時の持ち出し品は必要最小限になるよう
まとめましょう。

避難の心得

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違いま
す。それぞれが自ら判断し、「**自分の命は自分で守る**」
という意識を持って行動しましょう。

命を守る最低限の行動を

危険な状況の中での避難は出来るだけ避け、安全の確保を第一に考
えます。危険が切迫している場合は、指定避難所への移動だけでな
く、命を守る最低限の行動が必要な場合もあります。

具体的には

- 土砂災害の危険がある地域に住んでいる。
- 河川のはん濫により、浸水の危険がある地域
に住んでいる。
- 子どもや高齢者など家族に要配慮者がいる。

気象情報や町の避難情報に注意し、早めの避難
を心がけてください。

具体的には

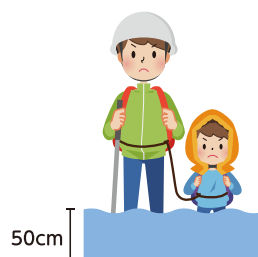
- 夜間や急激な降雨で避難経路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している。(50cm以上)
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落の
おそれがある。

危険な状況では、自宅や近隣建物の2階以上へ(土砂災害の場
合は、斜面から離れた部屋など)緊急的に一時避難し、救助を待
つことも検討してください。

洪水・土砂災害での避難の仕方

歩ける深さに気をつける！

歩ける深さは平均約50cm。
水がひざまで来たら助けを呼び、高い所
で救助を待ちましょう！



履き物に注意！

裸足、長靴は禁物です。
ひもでしめられる運動靴が良いでしょう。



ロープでつながる！

はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう！
また、水面下には危険が潜んでいます。長い棒を杖がわりに安全
確認をしてください。

もしも、
土石流に
遭遇したら

**逃げ方に
注意しましょう！**

土石流は流れるスピードが速いため、流れ
を背にして逃げたのでは追いつかれてしま
います。
土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる
等、逃げ方に注意しましょう。





避難行動判定フロー

平時に
確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、
自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

あなたがとるべき避難行動は？

必ず取組みましょう

ハザードマップ※1で自宅がどこにあるか確認し、
印をつけてみましょう。

※1ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの
高い区域を着色した地図です。着色されていないところ
でも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土
地やがけのそばなどにお住まいの方は、玖珠町
からの避難情報を参考に必要に応じて避難して
ください。

はい

災害の危険があるので、原則として※2、立退き
避難(安全な場所へ移動)が必要です。

例外

※2浸水の危険があっても、以下のすべてを満たす
場合は屋内安全確保(自宅にとどまり安全を確
保すること)も可能です。

- ①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまう
おそれの高い区域の外側である。
- ②浸水する深さよりも高いところにいる。
- ③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食料
などの備えが十分にある。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間が
かかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や
知人はいますか？

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や
知人はいますか？

はい

いいえ

はい

いいえ

警戒レベル3高齢者等
避難が出たら、安全な
親戚や知人宅に避難
しましょう(日頃から相
談しておきましょう)

警戒レベル3高齢者等
避難が出たら、玖珠町
が指定している指定
避難所に避難しまし
ょう。

警戒レベル4避難指示
が出たら、安全な親戚
や知人宅に避難しま
しょう(日頃から相談
しておきましょう)

警戒レベル4避難指示
が出たら、玖珠町が指
定している指定避難
所に避難しましょう。

※内閣府ホームページより一部を抜粋、編集して掲載

あなたがとるべき行動を知ったら

マイ・タイムラインを作しましょう(P11)



マイ・タイムラインの作成

大雨や台風などの風水害から身を守るためには、自分が住む地域の災害リスクを知り、防災気象情報を基に迅速かつ適切に避難することが重要です。

事前にマイ・タイムラインを作成し、「避難スイッチ」をオンにするタイミングなどを整理しておきましょう。

マイ・タイムラインとは

災害に対する事前の備えや、大雨・台風により浸水害や洪水、土砂災害などが発生する危険性が高まった時の避難開始のタイミング「避難スイッチ」などを、あらかじめ時系列に整理した【自分自身や家族の避難行動計画】です。

対象災害について

マイ・タイムラインの対象とする災害は、【進行型災害】を基本としています。マイ・タイムラインの策定にあたっては、災害対応時の想定外の事態を減らすため、最悪の状況を含む災害を想定することが大切です。

進行型災害

洪水や台風など、発生やその被災状況が一定程度予測できる災害。



突発型災害

地震や噴火など、発生の予測が困難な災害。



マイ・タイムライン作成例

警戒レベルと警戒レベル相当情報(防災気象情報)				※警戒レベルと警戒レベル相当情報が発令・発表されるタイミングと対象地域は、必ずしも一致しないことに注意		
警戒レベル1 早期注意情報 (気象庁が発表) 今後、気象状況悪化のおそれあり —	警戒レベル2 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表) 気象状況が悪化 はん濫注意情報	警戒レベル3 高齢者等避難 (市町村が発令) 災害のおそれあり 警戒レベル3相当情報 大雨・洪水警報 はん濫警戒情報	警戒レベル4 避難指示 (市町村が発令) 災害のおそれが高まっている 警戒レベル4相当情報 土砂災害警戒情報 はん濫危険情報 高潮警報	警戒レベル4までに必ず避難	警戒レベル5 緊急安全確保 (市町村が発令) 災害発生または切迫 警戒レベル5相当情報 大雨特別警報 はん濫発生情報 高潮はん濫発生情報	
警戒レベルに応じた家族の行動						
災害への心構えを高める ○避難先や避難経路を再確認する ○非常持出袋の中身を再確認する ○家族の予定を確認する ○持病薬や体調に応じた薬を準備する ○風で飛ばされやすい物を屋内に片付ける	自分や家族の避難行動を確認 ○ハザードマップの確認 ○携帯電話の充電を完了しておく ○家族の予定を確認する ○窓の施錠、雨戸を閉める ○おばさんに、避難する可能性があることを連絡する ○窓ガラスにガムテープを貼っておく	もうすぐ避難開始！	高齢者等は危険な場所から避難 わが家の避難スイッチ！ 警戒レベル3発令後に必ず避難する！！ ○避難経路の状況を確認 ○火の元、戸締りを確認 ○近所に住んでいる一人暮らしのおばあちゃんに声かけしながら、非常持出袋を持って、おばさんの家に避難開始！	危険な場所から全員避難 ○おばさんの家に家族全員が避難完了！ ○気象情報を確認する ○おばさんの家が危険な状況になりそうな場合は、〇〇小学校へ避難する ※避難した方が危険な場合は、そのままおばさんの家で避難を続ける ○テレビやラジオで気象情報をチェックする	全員避難完了！	命の危険、直ちに安全確保 ⚠ 自宅内の安全な場所へ避難 ⚠ 2階以上に避難
日頃から調べておくこと、備えておくこと						
わが家の災害リスク・避難先			非常持ち出し品		情報収集ツール	
☐ 浸水する深さ 想定 (3)m ☐ 近隣河川までの距離 (250)m ☐ 土砂災害警戒区域に入っている (いる・いない) ☐ 避難先① (おばさんの家) まで、徒歩 (車) で (10) 分 ☐ 避難先② (〇〇小学校) まで、徒歩・車で (7) 分 ※自宅が危険な地域ではない場合や、マンションなど頑丈な建物の場合は、屋内待機や垂直避難(建物内の2階以上) ☐ 避難先までの危険な場所・特徴 (避難先①道路が狭い 避難先②長い階段がある、街灯が少ない)			☒ 食料品 ☒ 飲料水 ☒ 貴重品 ☒ 着替え ☒ 懐中電灯 ☒ 毛布 ☒ 携帯電話の充電器 ☐ 電池 ☒ マスク ☒ アルコール消毒液 ☒ 体温計 ☐ ハザードマップ ※忘れてませんか？ ☒ 常備薬 ☒ お薬手帳 ↓その他に準備する物も書いておこう！ 紙オムツ 生理用品 ドッグフード ビニール手袋 タオル ウェットティッシュ		☒ おおいた防災アプリ ☒ 県民安全・安心メール／市町村防災メール ☒ テレビ ☒ 防災ラジオ ☒ 大分地方気象台HP ☒ おおいた防災ポータル ☐	

大分県のホームページからマイ・タイムラインの様式や詳しい作り方の確認ができます。 →



※大分県ホームページより抜粋、編集して掲載



避難所一覧

 指定避難所 ※下記1～12の施設は「指定緊急避難場所」としても指定			
NO.	施設・場所名	住 所	管理担当連絡先
1	わらべの館	玖珠町大字森868-2	72-6012
2	くすまちメルサンホール	玖珠町大字岩室24-1	72-0601
3	第24部消防詰所複合施設	玖珠町大字岩室2132-1	【対策本部】 72-1891
4	日出生北部地区コミュニティセンター	玖珠町大字日出生1926-5	【対策本部】 72-1891
5	日出生南部地区コミュニティセンター	玖珠町大字日出生1666-145	【対策本部】 72-1891
6	玖珠自治会館	玖珠町大字塚脇462-1	72-1511
7	塚脇小学校	玖珠町大字塚脇198	72-0232
8	旧春日小学校	玖珠町大字山浦2196	【対策本部】 72-1891
9	北山田自治会館	玖珠町大字戸畑6549	73-8734
10	北山田小学校	玖珠町大字戸畑2861	73-7524
11	八幡小学校	玖珠町大字太田1462	72-0414
12	古後小学校	玖珠町大字古後1611-1	74-2207

 指定緊急避難場所 洪水等による危険が迫った状況で、住民等が緊急に避難する際の避難先として指定			
NO.	施設・場所名	住 所	現象の種類
1	三島公園	玖珠町大字森858	水害・地震
2	三島公園グラウンド	玖珠町大字森868-1	水害・地震
3	旧森中学校グラウンド	玖珠町大字帆足2243-1	水害・地震
4	森中央小学校グラウンド	玖珠町大字森1-1	土砂災害・地震
5	日出生小学校・旧日出生中学校グラウンド	玖珠町大字日出生1926-2	地震
6	町民グラウンド(旧玖珠中学校)	玖珠町大字山田328-1	水害・土砂災害・地震
7	塚脇街区公園	玖珠町大字塚脇285-1	水害・土砂災害・地震
8	玖珠町総合運動公園	玖珠町大字山田90	土砂災害・地震
9	小田小学校グラウンド	玖珠町大字小田1027-1	水害・地震
10	旧杉河内小学校グラウンド	玖珠町大字山浦835-1	水害・地震
11	旧春日小学校グラウンド	玖珠町大字山浦2196	水害・土砂災害・地震
12	大野原公民館前広場	玖珠町大字四日市1664-2	水害・土砂災害・地震

 福祉避難所 一般の避難所では生活に支障をきたす要配慮者用に開設する避難所			
NO.	施設名	住 所	電話番号
1	玖珠園	玖珠町大字大隈325	72-3413
2	笑みの里	玖珠町大字大隈325	72-7777
3	共生の里メルヘン	玖珠町大字帆足2189-1	72-1515
4	れざんの木	玖珠町大字綾垣1086-1	72-3211
5	玖珠町老人福祉センター	玖珠町大字岩室24-1	72-6577
6	老人保健施設 はね	玖珠町大字山田2696	72-5550
7	グランドヒルズ アウルの丘	玖珠町大字戸畑6498-4	77-2722



ハザードマップの見方

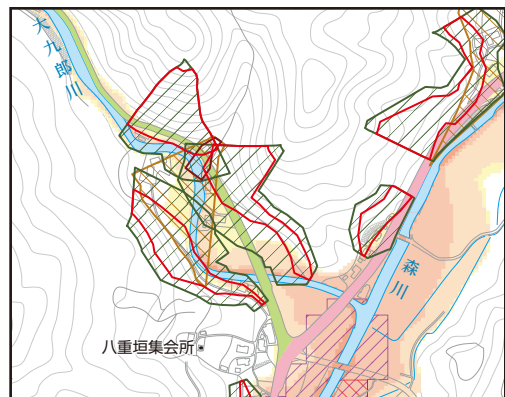
洪水浸水想定区域：想定最大規模

水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示したものです。

水位周知河川(令和元年度指定)と中小河川(令和5年度指定)

この地図は令和元年度に指定された筑後川水系玖珠川／森川の水位周知河川のほか、令和5年度に新たに中小河川の洪水浸水想定区域が指定されたため、町では洪水ハザードマップの見直しを行いました。

また、右図のように隣接する河川においては、それぞれの浸水想定区域図が重なり合う地区があります。本ハザードマップでは浸水深が深いほう(被害想定が大きいほう)の河川の浸水想定区域図を採用し、マップ掲載しています。※足し合わせではありません。そのため、右図のような地区は大雨の際に2つの河川に注意が必要です。



(例：大九郎川と森川)

洪水浸水想定区域

河川がはん濫した場合の「浸水する範囲(浸水域)」と「浸水の深さ(浸水深)」を示しています。



家屋倒壊等はん濫想定区域

家屋の倒壊をもたらすような河岸侵食やはん濫流が発生するおそれがある堤防沿いの地域は、早めの立退き避難が必要です。

なお、家屋倒壊等はん濫想定区域は水位周知河川のみ指定されています。(令和元年度指定)

これらの区域では早めの立退き避難を徹底してください

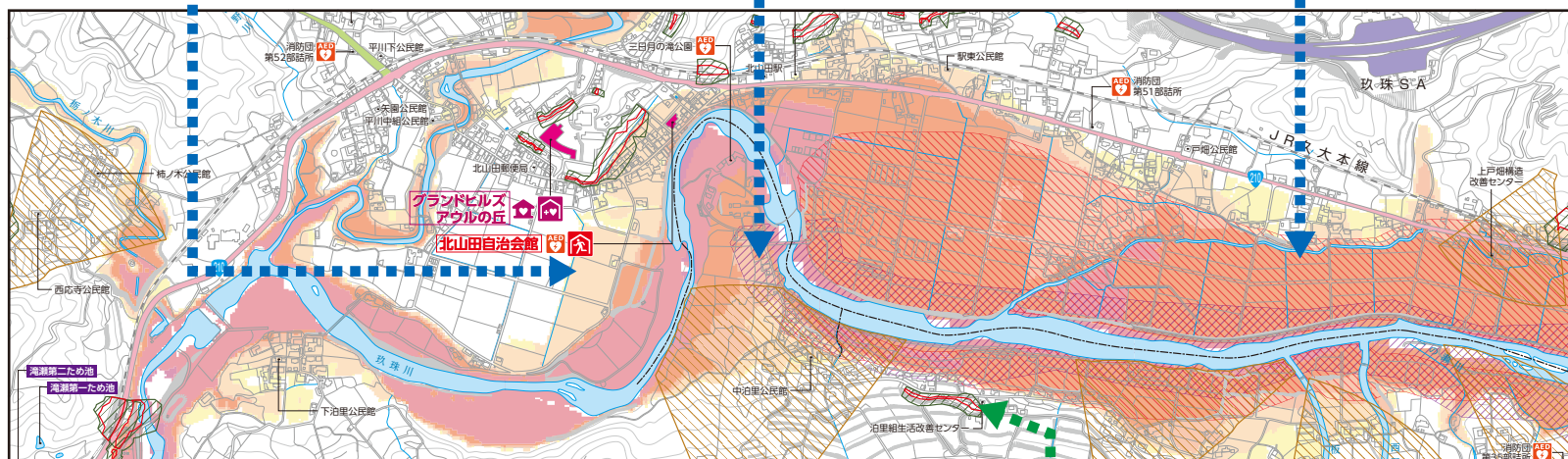
河岸侵食

河岸が削られて家屋が崩落するおそれがあります。



はん濫流

堤防の決壊やはん濫流により木造家屋の倒壊のおそれがあります。



土砂災害警戒区域・特別警戒区域

土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域。

土砂災害の危険がある場所

急傾斜地	警戒区域 特別警戒区域	■ 斜面の傾斜が30度以上で、高さが5m以上の区域 ■ 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域 ■ 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50mを超える場合は50m)以内の区域
土石流	警戒区域 特別警戒区域	■ 土石流のおそれのある溪流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域
地すべり	警戒区域	■ 地滑り区域(地滑りしている区域または地滑りするおそれがある区域) ■ 地滑り区域下端から、地滑り地塊の長さに相当する距離(250mを超える場合は250m)の範囲内の区域



緊急時の連絡

消防・救急は

119番

警察は

110番

	名 称	TEL
行政関係	玖珠町役場 (基地・防災対策課)	0973-72-1891
消 防	玖珠消防署	0973-72-2141
警 察	玖珠警察署	0973-72-2131

	名 称	TEL
ライフライン	電話の故障に関することは NTT西日本	0120-444-113
	停電に関することは 九州電力 日田配電事業所	0800-777-9427
	上水道に関することは 玖珠町役場 建設水道課	0973-72-7162

もしもの時のために連絡先を記入しましょう。

家族・親戚

名前	☎	名前	☎
名前	☎	名前	☎
名前	☎	名前	☎

かかりつけの病院

災害用伝言サービス

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。
なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

■NTT西日本
《災害用伝言ダイヤル171》



■NTTドコモ《災害用伝言板》



■au《災害用伝言板サービス》



■SoftBank《災害用伝言板》



■楽天モバイル《災害用伝言板》



災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否などの情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

●災害用伝言ダイヤルの使い方

※伝言蓄積数や保存期間は災害の状況により異なります。

伝言の録音	171-1-●●●●-●●●●●●●●●●	(自宅の電話番号、または連絡を取りたい方の電話番号)	伝言保存期間	提供終了まで
伝言の再生	171-2-●●●●-●●●●●●●●●●		伝言蓄積数	1電話番号あたり1～20伝言まで
伝言内容 (時間)	1伝言あたり30秒以内		利用可能 電話	加入電話、ISDN、ひかり電話、携帯電話(一部除く)等 ※ISDNおよびひかり電話をご利用でダイヤル式電話機をお使いの場合はご利用になれません

緊急速報メール/エリアメール

「緊急速報メール」により、緊急情報を配信します。

町では、災害時の避難指示などの緊急情報をより多くの人にお伝えするため、緊急時に町内にいる人の携帯電話へ「緊急速報メール」の配信を行います。

●「緊急速報メール」とは、避難指示などの緊急情報を町内にいる人の携帯電話(NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル等)へ一斉にメールを配信するものです。

※機種により「緊急速報メール」を受信できない場合や受信設定が必要となる場合がありますので、詳しくは、各携帯電話会社へお問い合わせください。

●配信する情報は、避難指示など、緊急かつ重要な情報です。

●携帯電話を利用する人の費用負担や事前のメールアドレス登録は必要ありません。